脂肪腫様脂肪肉腫

—— 臀部にみられた脂肪腫様脂肪肉腫の 1 例 ——

—— 加茂 理英* 石井 正光* ——

Lipoma-like liposarcoma in the buttock : A case report

Riei KAMO *, Masamitsu ISHII *

* Department of dermatology, Osaka city university graduate school of medicine

We reported a 74-year-old women of lipoma-like liposarcoma. She has had a subcutaneous mass in the left buttock for about 10 years and received operations twice for the lipoma at a previous hospital, but she had repeated recurrence of the tumor. Clinical findings showed a subcutaneous mass about 21 cm in the left buttock. CT examination showed a lipoma-like shadow with septums. Pathological findings showed the tumor was composed of mature adipose tissue and contained atypical cells within dense fibrous bands. We diagnosed this tumor as lipoma-like liposarcoma. The recurrence of the tumor was found by MRI examination 2 years and 8 months after the operation. We performed wide local excision with a margin of surrounding normal muscle for the recurrent tumor. There have been no recurrences and distance metastases of the tumor for 8 months.

The characteristic of the lipoma-like liposarcoma, shown by CT and MRI scans, a giant lipoma-like tumor with dense fibrous structures, present among the muscles of the limbs. Because of the marked tendency of local recurrence of the tumor, we carefully discussed the condition and decided that the tumor margin should be excised. After the operation, no recurrence has been seen for 8 months. [*Skin Cancer (Japan)* 2002 ; 17 : 65-69]

Key words : Atypical intramuscular lipoma, Recurrent tumor, The buttock region, Intramuscular tumor

はじめに

脂肪腫様脂肪肉腫は、しばしば脂肪腫と診断され、再発を繰り返すことを経験する。今回我々は2度摘出され再発を繰り返した症例を経験したので報告する。

症 例

患 者：74 歳，女性

初 診：1997 年 7 月 8 日

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：子宮癌（1974 年）

現病歴：1989 年と 93 年に 2 度左臀部の皮下腫瘍を他院で摘出され脂肪腫と診断された。

* 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学

図1. 初回手術(1997年10月)臨床像
左臀部皮下に可動性良好で境界不明瞭の弾性硬の腫瘍を触知した

図2. 術前CT検査
腫瘍は大殿筋と中殿筋、梨状筋の筋間に存在した。皮下脂肪組織と同様の輝度変化を示したが、隔壁構造が著明であった(←)腫瘍

図3. MRI検査
(a) T1強調像
(b) T2強調像で正常脂肪組織と同輝度であるが隔壁構造を認めた(←)腫瘍

a|b

図4. 手術時所見
坐骨神経を温存し、腫瘍と周囲組織の大殿筋、中殿筋と梨状筋筋膜、大腿筋膜、腸骨骨膜を含め切除を行った

1995年頃より同部が増大してきたため当院を受診した。

初診時現症：左臀部に直径約21cm 可動性良好弾性硬の皮下腫瘍を触知した(図1)。

画像検査：CT検査、大殿筋と梨状筋、中殿筋にはさまれ隔壁を有する多房性の低輝度の腫瘍陰影を認めた(図2)。

経過：良性脂肪腫と考え単純切除を行った。術後病理診断で高分化型脂肪肉腫と診断した。術後のMRI検査において腫瘍の残存がなく、また、腫瘍は悪性度が低く遠隔転移の可能性が少ないため、局所再発時に手術の方針で経過観察を行っていた。触診上腫瘍を触知しなかったが、2000年4月のMRI検査で腫瘍の再発がみられたため(図3)、同年6月1日拡大切除術を行った。

手術：前回の瘢痕より2cm離し皮切し腫瘍

と接する大殿筋は1cm, 下床は中殿筋筋膜と梨状筋筋膜, 外側は大腿筋膜, 内側は腸骨骨膜を含め, 座骨神経は温存し腫瘍を一塊として摘出した(図4)。

病理組織像: H.E. 染色弱拡大では, 腫瘍はほぼ成熟脂肪細胞より構成されていたが, 周囲に繊維性結合組織の増生がみられ厚い隔壁を形成し

ていた(図5a)。強拡大で繊維性結合組織の部分にlipoblastを散在性に認めた(図5b)。また, 腫瘍内に島状の筋肉組織を認めた(図5c)。以上より脂肪腫様脂肪肉腫と診断した。

経過: 術後8ヵ月経過するが臨床においても画像検査においても再発を認めていない(図6)。

図5. (a) H.E. 染色弱拡大像: 腫瘍はほとんどが成熟脂肪細胞様細胞で構成された
(b) 強拡大像: 成熟脂肪細胞様細胞に混じり lipoblast を散在性に認めた
(c) 強拡大像: 腫瘍組織内に異所性に筋肉組織を認めた

図6. 術後MRI検査(2001年2月)
(a) T1強調像
(b) T2強調像 腫瘍の再発は認めない(←) 腫瘍切除部位

a|b

考 按

liposarcoma は Enzinger によると 5 型に分類されている。脂肪腫様脂肪肉腫は、5 型に分類されたうちの well-differentiated liposarcoma のサブタイプに属する¹⁾。Evans はこの腫瘍の予後が良いことより肉腫という分類ではなく atypical intramuscular lipoma とすることを提言している²⁾。

臨床的特徴としては、四肢筋間や後腹膜に巨大な多房性の腫瘤を形成することが多く、Evans は直径が最大 30cm 最小 5cm 平均 14cm と報告している²⁾。自験例も直径 21cm で臀部の筋間に発生した多房性腫瘍であった。

組織学的には成熟脂肪細胞でほとんどが構成され異型細胞が繊維性隔壁にみられることを特徴としている¹⁾²⁾。また土谷らによると腫瘍の全断面で異型細胞がみられたのは 13 例中 2 例で他の 11 例では異型細胞は全断面の 11~60% にみられ、生検部位により良性と診断されることもあると報告している³⁾。自験例も特に周辺部で異型細胞を多く認めた。

画像診断においては、MRI 検査で注意を要する所見としては、土谷らは正常脂肪組織と異なる輝度変化は 13 例中 6 例であり、また腫瘍内に隔壁構造がみられるのは 7 例と報告している。また、CT 検査では正常脂肪組織と同様の輝度変化で腫瘍内にやや厚い隔壁様構造が目立つ症例が 7 例と報告している³⁾。宮川らは MRI 検査では 9 例中 T1, T2 共に皮下脂肪組織と同等な高信号領域で内部に低信号の隔壁構造が全例にみられ、そのうちやや低信号の霞状領域がみられた 6 例を報告し、CT では腫瘍は皮下脂肪組織とほぼ同じく境界明瞭で均一な低輝度領域で腫瘍内部にやや厚い隔壁様構造と淡い霞状の高輝度領域がみられることが特徴と報告している⁴⁾。自験例では CT 検査で正常脂肪組織と同輝度で、腫瘍内に隔壁構造を認め、MRI 検査においても T1, T2 において皮下脂肪組織と同輝度

で、腫瘍内に霞状の領域を認めた。

切除範囲と予後に関して Lucas によると切除範囲が広範切除と辺縁切除以下の場合において再発率が 11% と 60% と有意差を認めると報告しているが四肢に発生した場合には内臓転移や腫瘍死は認めないと報告している⁶⁾。また土谷は広範切除 2 例辺縁切除以下 13 例の合計 15 例を平均 5 年 11 ヶ月経過観察し 1 例のみに再発がみられたが、他臓器転移は認めなかったと報告している³⁾。自験例も約 10 年経過し局所再発を繰り返したが内臓転移はみられていない。Evans の報告のように脂肪腫様脂肪肉腫は四肢に生じた場合予後は比較的良好と考えられる。しかし、脱分化型脂肪肉腫が発生したという報告もあり⁷⁾、今後も十分な経過観察が必要であると考えている。

まとめ

74 歳女性の臀部脂肪腫様脂肪肉腫の症例で、筋肉間に発生した巨大な多房性腫瘍であった。MRI 検査で腫瘍は皮下脂肪組織と同様の輝度変化を示し、腫瘍内に隔壁構造がみられた。他院での病理検査において良性脂肪腫と診断されたが、再発を繰り返した症例であった。診断、切除範囲の点で苦慮した症例であり報告した。

文 献

- 1) Enzinger : Soft tissue tumors. second edition, The C. V. Mosby Company, St. Louis, 1988, 431-466.
- 2) Evans, H.L., Soule, E.H., Winkelmann, R.K. : Atypical lipoma, atypical intramuscular lipoma, and well differentiated retroperitoneal lipoma. Cancer, 43 : 574-584, 1979.
- 3) 土谷一晃, 伊藤隆, 井形聡, 他 : 分化型脂肪肉腫の治療経験. 臨整外, 34 : 1081-1089, 1999.
- 4) 宮田成章, 新井克志, 松浦英一, 他 : 診断に苦慮した脂肪腫瘍脂肪肉腫の 1 例. 形成外科, 40 : 921-925, 1997.
- 5) 宮川一郎, 阿部哲士, 中野裕貴, 他 : 高分化型脂肪肉腫の臨床病理学的検討. 整形外科, 50 : 1069-

- 1072, 1999.
- 6) Lucas, D.R., Nascimento, A.G., Sanjay, B.K.S., et al. : Well-differentiated liosaecoma. Am. J. Clin. Pathol., 102 : 677-683, 1994.
- 7) McCormick, D., Mentzel, T., Behan, A. : Dedifferentiated liposarcoma. Am. J. Surg. Pathol., 18 : 1213-1223, 1994.